

令和6年度 第1回 鳥取市総合企画委員会

日 時 令和6年5月29日（水）10：00～12：00
場 所 鳥取市役所本庁舎6階 会議室6-5～6-8
出席委員 石本昭雄委員、大橋祥子委員、岡大輔委員、奥谷仁美委員、尾坂亮委員、神田浩史委員、岸本夕子委員、久野壯委員、佐藤翔風委員、下田敏美委員、田中丈士委員、林由紀子委員、前岡美華子委員、山根滋子委員、米田恵子委員
欠席委員 竹本哲哉委員、田中利明委員、平井耕司委員、山下浩二委員、吉田高文委員
鳥取市 市長・副市長ほか関係部局長、政策企画課、地方創生推進室（事務局）

<議事概要>

1. 開会

2. 市長あいさつ

【深澤市長】

本日は、大変お忙しい中、御出席いただき感謝申し上げます。また、今回は委員の改選期であり、引き続き御就任いただくことに御快諾いただいたこと、また、公募で御参画いただいた皆さまに、改めて心より感謝を申し上げます。

本委員会は、鳥取市総合企画委員会条例に基づき設置される市の附属機関であり、本市のまちづくりの指針である総合計画や創生総合戦略等について、幅広い視点から御意見、御審議をいただくという大変重要な役割を持つ委員会である。今後、皆さまには現在の第11次鳥取市総合計画、第2期鳥取市創生総合戦略の進捗管理を行っていただくとともに、令和8年度からは次の第12次鳥取市総合計画がスタートすることになるため、次期計画の策定について、幅広い視点から本市の進むべき方向や、まちづくりのあり方などについて、御議論を賜りたいと考えている。

本日は、今後の総合企画委員会のスケジュール等について、また、第2期創生総合戦略とデジタル田園都市国家構想交付金事業の評価等について、また、次期総合計画の策定にあたり、現状と次期総合計画を策定するに当たっての基本的な考え方等について、情報共有をさせていただきたい。また、後半には、皆さまの意見をいただきたく意見交換の時間も予定させていただいている。

御承知のように、国全体で人口減少や少子高齢化が進展している。そのような中で、様々な課題があるが、そういった課題解決を図りながら、将来に向かって前進をしていく非常に重要な時期にあると考えているため、忌憚のない御意見を賜りたい。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 出席者紹介

4. 委員長・副委員長選出

委員長を林委員、副委員長を平井委員とする事務局案に対し、各委員から異論がなかったため、事務局案のとおり委員長・副委員長を選出。

【林委員長】

前回から引き続きになるが、新たな気持ちで皆様と一緒に次期総合計画、創生総合戦略について御議論させていただいて、市側からいろいろな情報をいただきながら組み立てていけたらと思っているので、皆さまにはぜひ積極的に御協力いただけたらと思う。

5. 諮問

【深澤市長】

次期鳥取市総合計画について諮問。本市の総合的なまちづくりの指針となる次期鳥取市総合計画について、鳥取市総合企画委員会条例第2条の規定に基づき、貴委員会の意見を求めます。

【林委員長】

承りました。

6. 議事

(1) 鳥取市総合企画委員会について

(2) 第2期創生総合戦略及びデジタル田園都市国家構想交付金事業の評価の実施について

【西田地方創生推進室長】

資料1を御覧いただきたい。本委員会の位置づけ、職務、審議予定等について説明させていただきます。

まず、「1 基本的事項」について、総合企画委員会は、鳥取市総合企画委員会条例に基づき設置している市の附属機関である。総合計画、創生総合戦略の審議を通じて、幅広い分野から市政に対して御意見をいただく場である。任期は、本日、令和6年5月29日から令和8年4月30日までの約2か年とさせていただいている。委員会の構成については、先ほど御紹介いただいたので省略させていただきたい。

次に、「2 審議等の予定」について、本日の令和6年度第1回委員会は、新たに選任させていただいた委員の皆さまによる最初の委員会であり、審議概要としては第12次鳥取市総合計画等の策定について等であるが、後ほど議事のところで御説明したい。次期総合計画の策定に係る御審議が、委員の皆さまの任期中の一番の職務になるかと思う。そして、第2回委員会を7月頃に開催予定とさせていただいているが、書面開催予定とさせていただいている。理由としては、次期計画の策定に係る意見交換にあたり、まずは皆さま御自身の分野での御経験を踏まえ、鳥取市の10年後、また、その先の将来像やそれに向かって進めるべき事項などの御意見を書面でいただき、それをまとめたものを第3回委員会の場で共有させていただきながら、意見交換をさせていただきたいと考えている。また、創生総合戦略等の評価を7月頃をお願いしたいと考えている。詳しくはまたこの後御説明したい。第4回委員会は年末、第5回委員会は来年の2月頃に開催したいと考えている。

それから、本日、皆さまの席に、第11次総合計画等の冊子等を配付している。まず、青い冊子は第11次総合計画の基本構想と基本計画が入っている。これが長期展望に立ってまちづくりの方向性を定める本市の最上位の計画である。その次に、総合計画第4期実施計画、総合計画概要版のパンフレットをお配りしている。その次に、鳥取市人口ビジョンの冊子もお配りしている。これは本市の人口減少対策の指針となるものであり、市の将来人口の目標を定めており、その達成に向けて施策を取りまとめたものが第2期創生総合戦略である。創生総合戦略を概要としてまとめたものが青いパンフレットである。この創生総合戦略に定めている施策が、総合計画において特に力を入れて取り組むべき重点施策として位置づけているものである。総合計画と総合戦略についてもう少し説明させていただきます。

まず、総合計画の概要版をお開きいただきたい。市民、企業、団体、行政が協力しながらまちづくりを進めていくための指針となるものであり、理念、将来像について、左上に

記載している。計画の構成と期間について、目指すべき将来像と目標を定めた令和3年度から10年間の基本構想、その構想を実現するための施策等を定めた基本計画が令和3年度から令和7年度までの5年間、その基本計画の施策に基づき実施する事業を毎年度まとめている実施計画という、総合計画は3層構造となっている。その下、人口の長期的な展望の右のグラフを見ると、鳥取市の人口は平成17年の約20万1,000人がピークであったが、令和2年には約18万8,000人、令和12年には約17万7,000人まで減少することが見込まれている。その下、施策の推進等に当たっては、SDGs、Society 5.0といった視点を取り入れて、計画の推進をしているところである。

右ページの体系を御覧いただくと、上に「めざす将来像」、「まちづくりの理念」、その下に将来像を実現するための「まちづくりの目標」ということで3つ掲げている。「誰もが自分らしく暮らし続けることができる持続可能な地域共生のまち、ほか2つということである。その右側に10の「政策」があり、さらにその右に35の「基本施策」がある。一番下の土台の部分には、計画を推進する持続可能な財政基盤の整備など基本方針を4つ定めており、健康や教育、福祉、経済といった各分野を横断的に取り組んでいるところである。体系図の右側の重点施策という欄に黒丸をつけているが、これが人口減少問題の克服に取り組む関連施策ということで、特に力を入れている重点施策である。これは総合戦略の施策としても位置づけられているものである。

続いて、創生総合戦略の概要版も御説明させていただく。創生総合戦略は人口減少問題を克服して地方創生を推進するために施策を定めているものである。人口に起因する様々な問題に対応するための施策を位置づけており、計画期間も総合計画基本計画に合わせ、令和3年度から5年間としている。その下に、戦略を推進する基本姿勢や行動指針を定めており、さらにその下に、戦略の方針ということで、目標人口を設定しており、2040年、2060年時点の人口減少をここまで抑えていくという目標を設定して目指しているところである。さらに一番下のところだが、戦略の柱として「ひとづくり」、「しごとづくり」、「まちづくり」の3つを位置付けている。柱ごとに施策を定めており、「ひとづくり」は、「結婚・出産・子育ての希望がかなうまちづくり」など、「しごとづくり」は、「稼ぐ地域・仕事と安定した雇用づくり」など、「まちづくり」は、「都市部等とのつながりを築き、人が行きかうまちづくり」など、柱ごとに目標を設定し、その中に施策を位置付けて進めている。

続いて、(2)第2期創生総合戦略及びデジタル田園都市国家構想交付金事業の評価の

実施についてということで、資料2を御覧いただきたい。第2期創生総合戦略と、戦略の推進のために国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用しており、委員の皆さまには7月頃に前年度の事業実績に対する評価をお願いしたい。本日は評価方法の概要を説明させていただき、具体的な作業について7月頃に改めて資料をお送りさせていただく予定にしている。

1 ページ下段の赤枠部分だが、委員の皆さまには、施策指標の目標値に対する達成度を見ていただき、4段階で評価していただくという作業をお願いしたい。

続いて、2ページを御覧いただきたい。評価シートの記入例として令和4年度の実績を添付している。上の紫枠が基本目標、緑色の枠で基本目標の指標を設定していて、この例でいうと移住定住者数を指標としている。表中の令和4年度部分を青色で網かけしており、目標値480人、その目標に対しての実績が458人ということで、95.8%の達成率ということになる。これを踏まえ、担当部局でこの実施状況について内部評価を行っている。その内部評価を踏まえ、青枠に4段階で達成度を評価していただきたい。さらに評価に御意見等があれば赤枠の評価コメントの欄に御記入をいただきたい。

次に、3ページを御覧いただきたい。これは、基本目標を達成するために取り組んだ重点施策を評価するシートであり先ほどの説明と同様に評価をお願いしたい。

次に、4ページを御覧いただきたい。ここには、施策を推進するために実施している具体的な事業の内容と成果を記載している。こうした事業の実績等を踏まえ評価をしていただきたいと考えている。

続いて、5ページを御覧いただきたい。デジタル田園都市国家構想交付金事業の評価について、この交付金のうち本市は、「地方創生推進タイプ」と「デジタル実装タイプ」を活用している。市の内部評価の後、委員の皆さまには外部評価ということで、この交付金で実施した事業が有効であったかどうかということをも4段階で評価をお願いしたい。

次に、6ページを御覧いただきたい。記入例として添付しているが、紫の枠に交付金事業の名称があり、黄色い枠に事業の実績ということで、例で令和4年度の実績をつけている。9ページの緑色の枠が重要業績評価指標（KPI）ということで、交付金事業の達成度を評価するために設定している指標である。10ページの上段に内部評価ということで、担当部局で自己評価を実施している。それを踏まえ、11ページの青枠で4段階で評価をいただき、さらに御意見等があればここに御記入いただきたい。

最後に12ページを御覧いただきたい。委員の皆さまが所属しておられる団体等をもと

に、「ひとづくり」、「しごとづくり」、「まちづくり」の区分で評価担当を割当させていただいている。この評価作業については7月頃を予定しており、改めて御案内させていただく。

○議題1、議題2について質疑応答

【尾坂委員】

評価に当たり、目標に対して実績がどうであったか、その取組に対してこのような実績があったということが記載されているが、その詳細というか、この数値を達成したことによって、実際どうなったのかといったことは各部署に確認すれば説明していただけるようなものなのだろうか。

【林委員長】

御質問は、取組の状況とか数値等を説明していただけるかどうかということだろうか。

【尾坂委員】

数値や実績は、恐らくこのシートに書かれているものだと思うが、それを見ただけではどうしても分かりづらいところが多分出てくると思うので、そのあたりを説明していただけるのかお聞きしたい。

【西田地方創生推進室長】

内部評価については、現状、課題、実績を踏まえて今後取り組むべき方向性といったものをコメント欄に記入させていただいている。また、4ページには施策を推進するために実施した個別の事業の成果、今後の課題や方向性をそれぞれの部署で記入している。この内容でも分からない部分については、評価をしていただくときに、御意見、御質問等をいただく機会を設けており、その回答はこの委員会の場で改めてさせていただき、その他ご意見があれば、委員会の際に御質問いただければと思っている。

【奥谷委員】

内部評価されて今後の方向性などが書かれているが、実際にこの体験された方のアンケートや感想なども拾い上げたところでの課題や方向性が表されているのかというのが気に

なった。もし事業ごとにアンケートや感想があれば、そういったものも少し入れていただくと、やったことに対して良かったのかといった実際に参加された方の意見というのが一番体感としてあると思うので、そうした意見なども見させていただけるとこちらとしても評価がしやすいと思った。

もう1点、「ひとづくり」、「しごとづくり」、「まちづくり」で、3つ担当が分かれているが、「しごとづくり」の中に女性がおられない。女性活躍時代とか言われているところで、鳥取市では共働きなどで仕事をされている女性は多いので、ぜひ女性委員を入れていただけると良いと思った。

【西田地方創生推進室長】

評価の中に市民の方からのアンケート結果などが反映されているかというようなお話で、事業の内容によってはそうした記載がある事業もあるかと思うが、いただいた御意見を踏まえ、なるべく評価される方が評価しやすいように、どういった事業だったのかを分かりやすいように記入していくように考えている。

評価担当の割当について、「ひとづくり」、「しごとづくり」、「まちづくり」はそれぞれ分野ごとにずっと固定させていただいている。今回、「しごとづくり」に女性委員がおられないが、女性の目線ということだと、連合婦人会から山根委員に出させていただいている。男女共同参画というようなことだと「ひとづくり」に入るかと思う。たまたま女性委員が「しごとづくり」の評価に関わらないということではあるが、それぞれの評価担当で評価をしていただいた内容を踏まえ、委員会でその評価に対して御意見等を頂くので、御意見等があればおっしゃっていただけたらと思う。

(3) 人口動向について

(4) 第12次鳥取市総合計画等の策定について

【西田地方創生推進室長】

資料3を御覧いただきたい。人口動向について、1ページ目は年齢階級別人口の推移ということで、鳥取市の人口は減少傾向にあることを示している。老年人口、65歳以上の人口は増加する一方であり、生産年齢人口、15歳から64歳まで、それから、年少人口、0歳から14歳までは減少しており、少子高齢化が進行している。

次に、2ページ目を御覧いただきたい。出生、死亡に伴う人口の動きである自然動態に

については、出生数が死亡数を下回る状態が続いている。また、高齢者人口の増加に伴い死亡数の増加が続いているということで、自然減が拡大傾向になっている。右側の令和5年の出生数1,148人と、前年の令和4年と比べて121人の減で、出生数の減少は加速している状況である。

3ページは、転入、転出に伴う人口の動きである社会動態であるが、転出数が転入数を大きく上回る状態が続いており、社会減、転出超過の状況が続いている。その中でも、4ページの若年層の転入転出の状況で、20代の社会減が他の年代に比べて顕著であり、令和5年の転出超過数が630人だが、そのうちの20代、20歳から24歳、25歳から29歳がそれぞれ298人と176人で、これを合わせた474人が20代で全体の4分の3を占めており、進学や就職により転出する方が多いことが背景にあるということが考えられるかと思う。

続いて5ページを御覧いただきたい。昨年末に国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」。）が日本の地域別将来推計人口を発表されており、それと鳥取市人口ビジョンの比較である。社人研2018年の推計値が青いグラフと数字、2023年の推計値が赤いグラフと数字であり、5年前と比較して人口減少がさらに加速をしていることが御覧いただける。黒いグラフと数字は、本市が2020年に改定した人口ビジョンにおける将来展望人口であり、その人口と比較すると推計値はかけ離れている。人口減少が加速していくことに対して、どういったことをしていけばいいのかということは今後考えていかなければならない。

続いて、6ページ、7ページを御覧いただきたい。4月24日に民間有識者会議の人口戦略会議が発表された消滅可能性自治体で、この資料は10年前、2014年に、当時は日本創成会議が発表された消滅可能性都市と比較しているものである。社人研の推計をもとに、30年後、20代、30代の女性が半数以上減少する自治体を消滅可能性自治体と呼んでおり、鳥取市は、前回、今回とも、消滅可能性自治体には入っていないが、2020年から2050年にかけて、20代、30代の若年女性が約3割強減少することが見込まれているという、大変厳しい数字が出ているところである。

7ページは、人口特性別に9つに分類をされているが、鳥取市は、真ん中のD-③に該当しており、自然減対策、社会減対策ともに必要と指摘をされている。このような状況を踏まえ、本市は5月7日に人口減少対策推進本部という庁内の組織を立ち上げて、全庁一丸となり、自然減対策、社会減対策ともに取り組むことを確認したところである。

続いて、第12次鳥取市総合計画等の策定について、資料4を御覧いただきたい。(1)基本的な考え方について、総合計画に掲げている目指す将来像やまちづくりの理念については継続して設定する必要があると考えている。次期計画の策定にあたっては、現計画の評価やコロナ禍で大きく変化した社会経済情勢等を踏まえ、さらに市民の皆さんの御意見を十分に聞いた上で、鳥取市の目指すべき姿としての将来像と理念を設定していきたい。

(2)現状について、計画策定にあたり、市として今の時点で考えられる現状の課題をまとめさせていただいている。現在の認識ということで報告させていただこうと思う。鳥取市を取り巻く主な課題について、鳥取市を取り巻くと言っているが、全国的な課題でもある。6点上げさせていただいており、(1)のところで、人口減少、少子高齢化、生産年齢人口の減少が最重要課題ということで赤字にしているが、若年女性の転出傾向で、特にこの若年女性が、一度県外に出られたらUターンする方が男性に比べて女性のほうが少ないということが全国的な傾向であるということである。また、人口減少に起因して、地域社会や経済を支える人材の確保、行政等職員の確保も困難になっていくということが今後想定されている。また、人口減少に伴う税収減ということで、財政が厳しくなるということもある。(2)超高齢化社会への対応ということで、高齢者が増加することで、医療、介護費がさらに増大していくというようなことがある。

次に右側の近年の社会環境の変化を御覧いただきたい。(1)東京一極集中の進行というところで、コロナ禍で一時的に東京都からの転出が転入を超過したが、コロナが終息をしていく中で、再び東京への人口流入が戻ってきているというようなこともある。また、(2)価値観や意識の変化で、特にコロナの影響により新しい生活様式という考え方が定着し、テレワークやオンライン会議などデジタル化の進展が加速していった。その他、地方に目が向くようになり、地方移住への関心の高まりや、居住せずとも地域と関わる関係人口というような考え方も認知されてきている。また、(4)インバウンドの拡大というところで、アフターコロナにおいてインバウンドが再度拡大しているという状況がある。特に直近では円安の進行が追い風になり、都市部や有名観光地ではオーバーツーリズムが発生しているという状況もある。また、(5)SDGsや脱炭素に関する取組の広がりということで、誰一人取り残さない社会の実現に向けた対応、それから、脱炭素、ゼロカーボンシティの実現に向けて、市民、企業を含めた社会経済活動の取組といったものが広がっているというようなことがあるかと思う。

次に2ページを御覧いただきたい。(3)策定にあたっての視点ということで、「鳥取

市の「明るい未来」をみんなで描き、みんなで行動する」としている。どのような計画にしたいのかということについて3つの視点を挙げさせていただいている。まず、（ア）市民みんなで取り組む計画ということで、総合計画基本計画に各施策を設けているが、この各施策において、市民や事業者等が担う役割を明記して、行政、市民、事業者の連携により取組を加速させたいと考えている。また、（イ）市民に分かりやすい計画ということで、市民の皆さんにとって見やすい、分かりやすい計画となるように、計画の中の表現等を簡潔明瞭にするということと、視覚的に見やすい冊子レイアウト構成にしたいと考えている。別紙1を御覧いただきたい。これは第11次総合計画基本計画の単位施策「農林水産業の成長産業化」の参考であるが、資料の2ページ目と3ページ目のように第11次総合計画の冊子で4ページにまたがっているものを、資料の1ページ目のように2ページにまとめたらこういう感じになるというイメージである。次期計画基本計画についてはこうしたレイアウトイメージを考えており、右側の主な取組の部分は現計画では文章で表現しているが、これを箇条書きでまとめるような分かりやすいものにしたいと考えている。また、右下の市民や事業者等が担う役割について、市民としてはこういったことに努めていただく、事業者としてはこういったことに取り組んでいただくといったものを施策単位で設定していきたいと考えている。

資料4の2ページを再度御覧いただきたい。（ウ）市民の意見を反映した計画にしたいということで、本市が目指す将来像等について市民の皆さんから直接意見を言っていただく機会を多く設けたいと考えている。別紙1の4ページを御覧いただき、市民等から御意見をいただく方法として、市民アンケートを約4,000人を対象に実施することを考えている。後程、詳しく御説明したい。また、大学生、高校生向けのアンケートということで、若者に対して進学、就職の希望や将来的な定住について、また、結婚観、家族観といったことも聞くことにしている。次に、意見交換としてワークショップを全4回開催予定としており、開催回ごとに個別にテーマを設定したいと思っている。まず、第1回目のワークショップを7月21日の日曜日に開催をしたいと思っており、このときには分野を問わず、本市の目指す将来像や鳥取市がどうなればいいのかといったことをその場で聞きたいと思っている。また、市長と市民とが直接対話する方式で実施している地方創生ストリートミーティングについては、対象者を学生や子育て世代、外国人等と今のところは想定しており、今年度は全5回実施予定としている。今年は、県外に住む本市出身の大学生を中心とした若者によるオンラインで行うストリートミーティングを検討している。また、地

域との意見交換について、新市域では地域振興会議をこの意見交換の場として考えており、各地域1回ずつ開催予定としている。旧市域は地域意見交換会ということで、独自で総合計画策定に向けて意見交換会を開催したいと考えており、旧市を7つのブロック、1ブロックあたり5地区程をまとめ、それぞれの地区代表の方に集まっていたいただいて意見交換したいと考えている。また、総合企画委員会で今年度5回開催予定、令和7年度は6回の開催を予定しており、計画、戦略の策定に向けて審議を行っていただく予定である。

再び資料4の3ページを御覧いただきたい。(4)計画等構成(各計画の位置付け)と期間について、第12次総合計画についても、基本構想を令和8年度から10年間、基本計画を令和8年度から5年間、実施計画については、その基本計画の期間内3年以内で毎年度策定ということで、現行の計画と同じ構造で今のところ考えている。創生総合戦略についても、総合計画基本計画の重点施策としての位置づけを継承しながら、第2期創生総合戦略の「ひと・まち・しごと」を基本とした構成を考えている。

次に、4ページ(5)策定体制について、まず、別紙1の5ページを御覧いただきたい。左上の鳥取市総合企画委員会が本委員会で、この場で計画の案等を審議していただくために、資料左側のいろいろな方法により市民の皆さん等から御意見を聴取する機会を設けたいと思っている。右側が市役所庁内の体制であり、各部主管課長等で構成される庁内プロジェクトチームでたたき台の検討等を行い、幹部で構成される賑わいのある「すごい!鳥取市」創生本部会議で修正等を行い、総合企画委員会に御提案をしていくという体制で進めていくことにしている。

再び、資料4の4ページを御覧いただきたい。(6)策定スケジュールの直近のスケジュールに本日の総合企画委員会を記載しているほか、7月21日にはワークショップを予定しており、令和6年度上半期には、市民アンケート、学生アンケート、ワークショップ等の基礎調査を行うこととしており、年間を通じては、総合企画委員会での御審議と庁内での会議、令和7年3月には、基本構想と人口ビジョンの素案の完成を目指していきたいと考えている。令和7年度のスケジュールは記載していないが、総合企画委員会は先ほどもお話しした計6回を予定しており、総合計画基本計画と創生総合戦略を含めて本委員会での御審議をいただきながら、策定を進めていきたいと考えている。また、総合計画基本構想については議会の議決事項であるので、令和8年2月議会に上程する予定としている。

○議題3、4について質疑応答

【久野委員】

思い付きではあるが、市民、大学生等の意見を聞くということを聞いている中で、僕は定年退職して何年か経つ同級生が東京におり、この連休に帰ってきたときに、東京から見た鳥取市の様子や都会の様子など、いろんな時代の変化の話をしてくれた。田舎にいとそういうことがよく分からないので面白い。鳥取出身で定年の年齢の人で、余裕があったり、ある程度のポジションに就いた人が結構おられるが、そういった人の意見も聞けないだろうかと思った。鳥取市から出ているが、鳥取市のために何かしたいなという思いをひしひしと感じた。彼は今、週末だけの今井書店の副店長という肩書も持っておられるが、何かそういった人の鳥取市に対する思い、協力、意見などを聞ける機会が持てないかなと思った。

【西田地方創生推進室長】

鳥取市出身の方で、一旦外に出られて、外から見たというような御意見は貴重であると思っている。先ほど説明させていただいたような大学生のオンラインミーティングも考えているが、今おっしゃったやり方でいうと、例えばそれぞれの県人会の皆さんの御意見を聞くということがそういう機会になるのかなと思うので、もしそういう機会があればお聞きするというようなことも検討してみたいと思う。

【奥谷委員】

レイアウトなどを見やすくするという提案をされていたが、見やすくするというのはすごく良いと思った。一つ面白いものを見つけたのだが、熊本市現代美術館という日比野克彦さんが館長をされている美術館があり、そこで今年の4月3日から5月27日まで「感じる計画！熊本市第8次総合計画展」という展示をされていた。熊本市現代美術館で総合計画を広く市民に伝えるために、現代美術館の協力でアート展やワークショップなど、いろいろされていたというのがあり、そういった市民のワークショップとかもなかなか公募しても集まらない、若者も自分が必要な情報しかとってこないと思うので、倉吉に県立美術館もできるが、若者とかみんなが立ち寄れる開かれた場所でこうしたことをPRしていくのが良いかなと思った。ぜひ御興味があればこの熊本市の企画展の様子とかを見ていただけたらと思う。

(5) 市民アンケート調査の実施について

【西田地方創生推進室長】

資料5を御覧いただきたい。市民アンケート調査は、市民の日常生活における満足度等を把握し、第11次鳥取市総合計画の事業の進捗状況や、課題、効果検証に活用するということと、次期総合計画策定の基礎資料とするために行うものである。

調査対象を15歳以上の市民4,000人とし、郵送により調査票をお送りするが、回答は郵送でお返しいただくことに加えて、今回、新たにインターネットによる回答ができるように調査票にQRコードを貼り付けており、回収率を上げていきたいと思っている。

調査内容については別紙2「鳥取市民アンケート調査票(案)」と併せて御覧いただきたい。前回の令和元年調査と比較して、修正しようと考えているたたき台であり、削除予定箇所を赤字で消している。新たに追加予定の箇所を青字で表現している。

修正点について簡単に御説明させていただく。別紙2の6ページを御覧いただきたい。「質問4 鳥取市の将来像についておたずねします。」というところで、前回調査では13の項目を設定し、選択肢の中から3つ順位をつけて選んでいただく方式にしていたが、今回は鳥取市の理想の姿をイメージしていただいて、文字数はまだ検討中だが今のところ20文字以内で自由記載をしていただく方式に変えたいと考えている。理想の姿をイメージした表現を回答していただき、鳥取市が目指すべき将来像を描くためにどのような言葉がふさわしいのか、それを抽出、要約することで、将来像に盛り込むようなキーワードを絞り込んでいきたいと思っている。

続いて11ページの質問7で、これは新たに質問として追加しようと考えている。デジタル技術等の活用についてということで、鳥取市はDXの推進を進めているが、市民の皆さんにとってデジタル化が進むことを特に期待する分野がどのような分野なのかをお聞きしたいと考えている。これを受けて、デジタル化を優先して取り組むべき分野を絞っていききたいということで、新たに質問したいと考えているところである。

また、12ページの市民行動について、前回調査は市民参画の有無とその理由をお聞きしていた。今回少し変えたいのが、まず「①地域をよくするために何か行動したいと思えますか」というところで市民意識を先にお聞きをした上で、「②地域のためにあなたができると思うこと」を20文字程度で自由記載していただき、記載いただいた内容をもとに、先ほど御説明した別紙1の基本計画の各施策に市民の皆さんや事業者等の役割を示す部分に活用したいという思いで、こういう質問に変えたいと考えているところである。

○議題5について質疑応答

【尾坂委員】

自由記載を設けて御意見を広く取り入れられるのはすごく良いと思った。20文字程度で設定しているのはそれはそれで良いと思うが、せっかくの自由記載なので、もしそれ以上に伝えたいことがある方がおられれば、その意見も補足欄か何かで拾い上げられたらより良いのかと思う。

【西田地方創生推進室長】

自由記載については、テキストマイニングというやり方で、記載いただいた言葉を分析していくという手法を用いようと思っている。その点で文字数が何文字まで対応できるかは、業者とも相談しながら調整したいが、なるべく文字数を多く御記入いただけるようにしたいと思っている。その他については、15ページ最後の自由記載のところに御記入いただくように調査票を作りたいと思っている。

7. 意見交換

【下田委員】

アンケートの関係で身近な話題を少し提案させていただきたい。9ページに鳥取市から提供される情報をどのように入手しているかという設問がある。この4月からごみの分別が変わり、有害ごみ、電池等の扱いが変わった。私どもの町内会で、私の班が15世帯あるが、町内会に入っているのは8世帯である。どのように分別するのか知っておられるか分からなくて、私がたまたま5月にごみの当番になったが、全く分別ができておらず、ガスボンベが残っている、貼り紙をしても取っていないということで、どうも情報を知らないのではないかと思う。町内会に入っていないから、多分市報も配ってないし、回覧も回っていないのかと思う。私自身も困るので自分で作って全ての15世帯分に入れた。市報は配られていないがホームページぐらいは見るのかと思い、不明な点は鳥取市のホームページなどで確認してくださいというふうに自分で作ったが、この情報提供の在り方を少し工夫していただけたらと思う。全部の世帯に市報を入れてあげれば良いかもしれないが、それを見て、有害ごみという意味が分かりにくかったのか、2回ほど取り残しがあり苦労した体験があるので多分知らない人もあるのかなと思い、対策も必要なのかなと思っ

た。

【山根環境局長】

この4月から新しく有害ごみの収集回収を行っている。周知の仕方としては、昨年の市報10月号から全戸配布したガイド、家庭ごみの分別と出し方ガイドも配らせていただいている。始まる前には市報にも掲載し、3月中旬には全社に新聞の折り込みで周知をさせていただいた。また、公式ウェブサイト、鳥取市公式LINE、ケーブルテレビなど様々な広報媒体を活用してPRさせていただいている。自治連合会にもお願いをしており、今度の会長会の際には、皆さまにも御説明させていただき、各町内会、自治会を通じて周知を図ることとしている。自治会に入っておられない方等もおられるので、引き続き市報のほか、テレビ、LINE、ケーブルテレビ、ラジオ等しっかりとPRさせていただきたい。

【下田委員】

おっしゃりたいことは分かるが、一番の課題は、町内会に入っていないと市報を配っていない可能性がある。アパートなどは若い世帯が多いので、新聞を取っておられるかどうか分からない。インターネットも自分が必要であれば多分見られるが、何か啓発がない限りはあえてネットで調べられないと思う。取り残しのシールが貼ってあって、2、3日放置してあったが、やはりそれも無関心であったりとか、たまたま5月は連休があったので、ガスボンベが多く出ており、私も非常に困ったが、行政が思うほどそういう媒体を見ておられるかは、実際住んでいて少し疑問に感じる。

【尾坂委員】

自分はUターンという立場でこの場に参加させていただいている。3年前にUターンしてきて、今は鳥取と東京の2拠点で仕事と暮らしをしている。自分の場合、妻が高知出身で、東京で出会って鳥取と一緒に帰ってきた。今は地元の企業で働いているが、やはり東京との賃金などを含めた条件面や、子どもが今2人いるが、3人目をどうしようかというときに、やはり今の仕事との兼ね合いでなかなかうまくいかなかったりとか、そういうところが結構課題としてあるので、その辺りを自分の体験をもとに思ったことなどをお伝えしていけたらと思っている。

総合計画を初めて読ませていただいたが、読めば読むだけすごく面白いなと思った。さ

らに今回、より市民の方に見やすく、市民一人一人の役割も意識してもらえるような内容で作っていかうということだが、やはりそれをどのように一人一人の手に届けるか、実際に手に届けるだけではなくて、実際にそれを読んでもらって自分事として考えてもらうのは結構難しい。内容を考える以上に知恵を絞っていかなければならないと思うので、その辺りも一緒に考えていければと思っている。

最後に全体的な質問として、改めて自分たちの役割の確認だが、いろいろと計画をもとに意見を出す、この委員会全体のゴールが具体的にどこまで落とし込むのかというのをまだ認識できていないので、改めて御説明いただければと思う。

【西田地方創生推進室長】

今日の御説明の中では、少しその辺りがお伝えできなかったのかなと思う。今回の任期では次期総合計画、創生総合戦略を策定していくというところで、皆さんの御意見、市民の皆さんの御意見を頂きながら、事務局案という形で御提案させていただいて、それに対して御意見を頂くということで、形のないものから徐々に作り上げていくというのがまず一つ目の職務である。また、創生総合戦略、国の交付金事業について外部評価いただきたい。これについては、内部の評価だけではなく、外部からの評価をいただいて、それを次の施策、それからその事業のブラッシュアップ等に取り入れていくということで、PDCAサイクルを回して、事業、施策を展開していきたい。評価は前年度の実績について評価いただくため、この2年間の任期では、今年度が昨年度の実績、来年度に今年度の実績を評価していただくことになる。この任期の最終的なゴールとしては、来年度に総合計画、創生総合戦略、人口ビジョンを作り上げて、議会に上程をするというところで、2か年かけて、皆様からの御意見を頂いて、作り上げていくことが主な職務と考えている。

【田中丈士委員】

市内で国際交流のボランティア活動をしている。今年1月に能登半島地震があったときに、NHKのアナウンサーが、避難の呼びかけをすごく簡単な言葉で言われた。日本語は結構回りくどい表現が多くて、日本語に慣れない外国人には難しい場合もあるので、そうした簡単な言葉で言うことは、やはり外国人に対して非常に良いことだし、我々日本に住んでいる人間にとっても良いというようなことがあると思う。いつも災害が起こると言われているが、外国人をいかに避難させるかといったことが課題になっていて、日頃からの

社会コミュニティーといったことも大事なことである。そうしたことを考えると、外国人に対するそうした取組は、我々日本人、住民も住みやすい社会につながっていくのだろうなと思っている。そういった観点で、一緒になって考えさせていただきたい。

【前岡委員】

国府町でブドウ作り、ワイン作りをしている。評価やアンケートというのは、一方向からの評価、アンケートを取る側だけの意図的な回収にならないように、私たち企業を運営していていつも気にしているところである。先ほど御説明にあったように、アンケートを取っている側がコミットできるように回収されているなと思い、非常に嬉しく思った。

初参加なので、鳥取市がこのような計画を非常に細かく作っておられることを始めて知った。鳥取市国府町は、鳥取市の中でも非常に人口減少の激しいところだと自覚している。町内会離脱についても、昔からの地域だからコミュニティーが非常にしっかりしているかなと、私も20年ほど前に鳥取に来たので思っていたが、実はそうではなくて、コミュニケーションがなかなか取れないような地域になっていると自覚している。ごみの分別に対しても、行政任せにして、行政にもっとアピールしてくださいと言うよりは、私たち市民が地域でどのように人との繋がりを作っていくか、その地域でどのようなコミュニティーを作っていくかということが問われている時期だなと非常に痛感しているので、私も一市民として、ここの委員に参加させていただきながら、国府地域中心に何ができるかということを実際の行動に落とし込んで参加させていただきたいと思う。

【大橋委員】

私たちは、ゆうゆうとっとり子育てネットワークということで、いろんな公民館で開催されるような育児サークルをまとめる団体であり、私は、今回初めてこの委員会に参加させていただいた。夫が鳥取出身、私は東京出身で、夫と東京で出会って、子育てを2年ちよっとしながら、東京に住んでいたが、鳥取に帰ってくるということで、一緒に来て、1人目を育てながら、今、2人目、3人目、一番下の子が小学生になったが、子育て世代の中の一人として意見をさせていただけたらと思う。

鳥取に来るにあたって一番のネックだったのは、車を運転することだった。地域の中で生活するには特に問題はなかったが、就園とか就学するにあたり、中学生の部活の送り迎えなど、やはりどんどん車が必要になってきた。ありがたいことに布勢公園や重箱公園と

いった大きい公園はすごく整備をされているが、地元の公園、地区の公園は遊具がなかったり、整備がなかったりすると、休みの日にちょっと遊びに行こうかなとなっても、子どもがいない。地区の中で生活をしていても、小学校に上がるまで地域の子どもを知らなかった。友達もいなかった。子どもたちも同い年はいるが、小学校で初めましての状態だった。そこからの繋がりでは友達はできてくるが、やはり地域の中で生活するためには、公園など子どもが安心して暮らせる、遊べる場所が大事で、そこで子どもが遊んでいると、大人から見たときとか、大学生とかまだ子どもを持っていない人たちが安心して、これから子育てできるんじゃないかなというビジョンが持てるような環境が必要ではないかなと思った。

【岡委員】

今回初めて参加させていただいた。我々は、後継者の育成、中小企業の発展を目的に活動をしている団体で、25歳から45歳までの会員がいる団体である。たくさんの資料をいただき、なかなか理解が追いつかないというのが正直な感想である。我々の団体では、最近、大学生、高校生といろいろな交流を深めて意見交換をすることが多くなってきている。すごく世代間ギャップを感じるし、若い方々、我々が高校生の頃と比べて、すごく優秀で頭がよく、考えていることも立派なことというのは特に感じる。我々ももちろんだが、高校生とか大学生を特に巻き込んでいただいて、アンケートだけではなく、意見交換ができたり、一緒に事業に参画できるような仕組みを作っていただくと、これからの鳥取市を支えてくれる若者に対して、すごく有意義な時間になるし、鳥取市にとっても有意義なものになるのではないかなと感じた。

【佐藤委員】

初めて参加させていただいたが、素晴らしい企画、綿密な計画の下にこうして推進されていることを感じた。私は、まちづくり、そして、鳥取市文化団体協議会の理事として委員会に参加させていただいている。文化団体協議会の中で常に話が出るのが後継者についてである。文化にはいろんな文化があり、継承していくためにはどうしたらいいのか、これは重点的な話で、いつも話が行き詰まってしまう。市の取組として、芸術の出前講座等で各学校に先生を派遣すると、特定の子ども、希望される学校、希望される芸術、例えば書道とかになる。私は詩吟をやっており、父から継いできたものを少しでもこの地域に広

めたいという一心で頑張っているが、高齢化に伴い、だんだんと消滅状態になってきているのが現状である。出前講座はとても良い企画だが、授業の中に入れ込んでもらったら心の底から願っている。なかなか難しい面があるが、こういう文化があるということで授業に入れていただいたらなという思いもある。

また、どうしたら若者の気持ちを引き込むことができるか、体全体を動かして踊ったり、傘踊りなどはすごく楽しそうにして、若い人も集まってくるが、伝統文化も若い人が飛び込んでくれるような状況に持っていくにはどうしたらいいんだろうといつも考えている。詩吟では、あまり古いものに固執しても若い人が目を向けてくれないということもあり、詩吟と踊り、ジャズ、和太鼓といったものとコラボして、若い人の前で発表する、そういうすばらしいものを田舎のステージで披露させて見せてあげたい。そうすれば、すごいなということで、私もしたい、僕もしたいということにならないかなというようなこともいつも考えている。

私としては、日本のすばらしい文化を消滅、なくしてしまうのではなく、少しでも細く長く、皆と楽しんでいけるようにというふうに毎日願っている。どこまでこの計画に寄与できるかなと思っているが、自分のできる範囲でいろんな知恵を出して臨んでいきたい。

【久野委員】

村づくりとか学校に関わっていると少子化の課題がすごく出てくる。その課題をどう解決するかは、地域の方ではできないところもあったり、人が替わり様子も分からなくなってくると、いろんな問題をどうするかということが問われてくる。僕はいろんなところに顔を出しているが、この委員会に顔を出させてもらったのも、そんな地域の課題が少しでも解決できないかなと思っていることである。例えば地元には忠魂碑がある。木が大きくなって道路を邪魔して、前は管理者がいたかもしれないが、どうやって地域で面倒を見るのか、木を切りたいが簡単にはできずどうしていくのか。農業の問題一つ取っても、集落で1人か2人田んぼを作っているが、その人たちが倒れたらその地域は荒廃となり、だんだんそれが広がってきている。何がどうできるのかなと思いながら、いろいろ思い悩んでいる。

一つ気になることがある。デジタル化やAIなど技術が進歩して便利な社会になってはきているが、年を取ると面倒になる。店に入るのも、何か機械を使って席を予約したりとか、料理を頼んだりとか、若い人は平気ですが、年を取ってくるとだんだん難しくなってくる。国は一生懸命デジタル化を進めており、いろんな世界的な流れもあると思うが、

日々の生活でどういうことが幸せになるのかなと思いつつ、少し思いあぐねるところがある。そういったことは総合計画でなかなか反映させるというわけにはいかないと思うが、何か負の部分もどう伝えるのかなと思ったりするところがある。スマホで連絡を取り合うが、スマホを持っていない人も近所にはおり、そういった人とのネットワークもどうするのかなとも思う。

もう一つ、コロナで地域のコミュニティが大分横着になってきているのが見えて、意識して一生懸命やらないと、情報交換もだが防災の観点にしても大丈夫かなと思うようなことを感じる時がある。その辺ももっと一層やっていかないとと思うところがある。日々の課題はそんなに大きくないが、簡単には解決できないと思う。

【深澤市長】

長時間にわたり活発に御議論いただき、いろんな示唆に富む御意見等を賜ったことに感謝申し上げたい。前半は、資料のボリュームが多く説明で時間を取ってしまったが、次回からいろんな御意見をいただければ大変ありがたい。

下田委員から、町内会でなかなか情報伝達等が難しくなっているというお話もいただいた。平成20年当時は鳥取市の町内会加入率が7割強ぐらいあったが、十数年経過し今は6割ぐらいということで、逆に4割の方は地域のコミュニティ、町内会等に加入をしておられないといった状況で、年々加入率が下がってきている状況がある。そうした中で、ごみ収集等、いろんな情報をお伝えしていかなければならないということで、いろんな情報伝達媒体も使いながらお伝えしようと思う。なかなかそれも十分ではないような状況があるが、いろんな工夫をしながら、いろんな形でお伝えをしていくことが必要だと思う。

前岡委員からも御提案いただいたが、地域でいかにコミュニティを形成していくのが大変重要な課題ではないかというようにお話もいただいた。私も全くそのとおりだと思う。少し価値観が多様化してきたり、地域の繋がりがどうしても希薄化してきているような状況があるが、近年のように、災害が多発したり、それも激甚化、頻発化してきている中で、お互いに支え合い、助け合っていくことが非常に重要になってくるので、地域での繋がりをどのような形でこれから作っていくのかということは、我々もしっかりと考え、取り組んでいかなければならない重要な課題の一つであると考えている。

また、簡単な形、分かりやすい形で伝えていくということについて、能登半島地震のときのNHKのアナウンサーの方の例を取り上げていただいた。分かりやすい形でというこ

とに鳥取市も取り組んでおり、日本語を少し分かりやすくする、これは、地域に由来からお住まいの方だけではなくて、外国人の方にも伝わりやすいようにということで、その辺りも意を用いていかなければならないと思っている。それから、鳥取市の防災アプリは多言語対応しており、9か国の言語でお伝えができるようにしているし、これからもさらにそういった情報伝達についてしっかりと意を用いて取り組んでまいりたいと考えている。

また、高校生、大学生を巻き込んだ議論も必要ではないかというような御提案もいただいた。ちょうど昨日、とっとり若者地方創生会議を新しいメンバーでスタートしたが、地方創生の推進、総合計画等を策定するにあたり、若い世代の方の意見を出していただくことは必要であるということで、鳥取市は第1期創生総合戦略、人口ビジョンをつくった翌年度の平成28年度から、こうした若者会議を毎年開催していろんな御提案をいただいている。実際に活動していただき、1年間の締めくくりということで、大体年度末の3月に提言いただき、鳥取市としても、次年度の予算で具体的に予算化をして進めていこうと取り組んできています。総合計画、創生総合戦略等でも若い方の御意見をいろんな形で取り入れていくことはとても重要なことだと思う。将来は、市政、鳥取市を担っていかれる方が今の若い世代の方なので、そういった方の御意見をしっかり取り入れて反映させていくことにこれからも努めてまいりたい。

また、久野委員から、地域のコミュニティが維持できなくなってきており、コロナを経てそうした状況が加速してきたのではないかといったお話もいただいた。そのとおりだと思う。人口減少や少子高齢化、これは当面は減少スピードを食い止めていくということで、増加に転じるということはなかなか難しいが、そういった中で、いかに地域の活力を維持していくか、繋がりを持っていくのかといったことがとても重要だと思うので、そうしたことも次期総合計画、創生総合戦略の中で、一つの大きなテーマとして位置づけて、取り組んでまいりたいと考えている。

今日は第1回ということであるので、また次回からいろんな御意見をいただければ大変ありがたい。

8. その他

9. 閉会